

平成19年度（2007年度）学校自己評価
年度末評価結果

学校評価委員会

□ 教育目標

- (1) 自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。
 - ① 自主的・自律的に学校生活に取り組む校風、態度を形成する。
 - ② 生徒個々の学習意欲を高め、学習習慣を定着させる。
 - ③ 基本的な生活習慣の確立を図り、倫理観や規範意識を高める。
- (2) 一人一人を大切にしたい、夢や希望を育み、個性を伸ばす。
 - ① 基礎・基本を確実に習得し、創造性を高め、個性を伸ばす。
 - ② 夢や希望、能力・適性、進路に応じた目標をもち、自己実現を図る。
 - ③ 向上心をもって共に学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
- (3) 心豊かで、たくましく生き抜く人間となるための力を伸ばす。
 - ① 幅広い学習体験や特別教育活動に取り組むことにより、人間性と社会性を育てる。
 - ② 人間尊重の精神、信頼と友情に基づく連帯感を育てる。
 - ③ 地域社会の要望に応え、社会に貢献できる人間となるための力を伸ばす。

□ 中期重点目標

梓川高校及び梓川高校生の存在意義の確立

- (1) 「地域から信頼される学校」を目指して、「地域に開かれた学校づくり」を実践し、地域に根ざした梓川高校としての存在意義の確立を図る。
- (2) 梓川高校生の一人一人が将来への目標を掲げ、自主・自律的な意義ある高校生活を送り、社会の一員として自らの存在意義を確立していく。

□ 今年度の重点目標

- (1) 地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。
 - ① 本年度入学生より導入される新コース制の実施に向け、現コース制からのスムーズな移行が行えるように、コース制の充実に努める。
 - ② 新コース制導入をうけて、さらに本校の将来ビジョンの具体化を図る。
 - ③ 地域との連携を密にすることにより、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開に努める。
- (2) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努める。
 - ① 一時間一時間の授業へ取組みの大切さを理解させる。
 - ② 習熟度別授業・少人数制授業を実施するとともに、補習授業及び個別指導の充実を図る。
 - ③ 三年間を見通した進路指導のもと、生徒一人一人の進路目標を早期に確立させ、その実現に向けての学習意欲の喚起に努める。
- (3) 基本的な生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。
 - ① 全職員の協力のもとに「身だしなみを整える、上下履きの区別をする、ゴミを散らかさない等」の基本的な生活習慣の確立を図る。
 - ② 様々な行事を通じて、集団生活のマナーやルールの大切さを理解し、自ら実践できるように生徒の社会性の高揚に努める。
 - ③ 生徒会活動・クラブ活動・学年、学級活動等を通じて、自主・自律的な意識の育成とその実践のための指導助言を行う。

□ 年度末評価

【総合評価】

新しく設定された3コース制の初年度にあたり、新しいコースへスムーズに移行させるための取組みが行われた。新しく設置された教養コース及び自由選択群により、多様な生徒の進路希望に柔軟に対応するための検討を進めてきたが、検討を引き続き行う必要がある。

各教科ではシラバスの内容を精選するなどして、生徒の学習意欲の喚起に努める工夫を進めたが、十分効果が現われたとは言いがた。シラバスについては更なる検討が必要である。今年度も習熟度別学習や少人数制授業を実施し、基礎基本の定着に成果を上げた。学年主体での補習も実施されたが、その一方で生徒の進路実現のための個人補習は、まだまだ個々の教科担任の工夫による所が大きい。

多様化する生徒の進路希望に対応する進路指導計画の策定及び具体的な実践が必要である。

また、引き続き、基本的な生活習慣の確立を目指した生徒指導上の取組は今年度も一定の成果を上げた。今後はさらに日常的な指導について、全職員が共通の問題意識を持ち、充実したものになるような具体的な実践を進めていきたい。

今年度も、地域の皆さんから意見を頂いたり、公開授業、教育懇談会を実施し外部評価を得る機会を設定した。その結果多くの貴重なご意見を頂戴することができた。今後とも「地域から信頼される学校づくり」を進めていくことが課題である。

【本年度重点目標の評価】

本年度の重点目標					
(1) 地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見をお聞きすることができた。 新しいコース制の設置がスムーズに生徒の進路希望に対応できるようにすることが課題である。</td> <td>20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進めたい。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。 さらに左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。更により一層の地域との連携を密にする様々な取り組みを検討する。</td> </tr> </tbody> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見をお聞きすることができた。 新しいコース制の設置がスムーズに生徒の進路希望に対応できるようにすることが課題である。	20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進めたい。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。 さらに左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。更により一層の地域との連携を密にする様々な取り組みを検討する。
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見をお聞きすることができた。 新しいコース制の設置がスムーズに生徒の進路希望に対応できるようにすることが課題である。	20年度の本格実施に向けて、新しく設定された三つのコースの充実を図るための具体的な検討を進めたい。また、ビジョン委員会を中心に将来ビジョン設定の検討を引き続き行う。 さらに左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。更により一層の地域との連携を密にする様々な取り組みを検討する。				
(2) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努め	<table border="1"> <thead> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎・基本の確実な定着は習熟度別授業・少人数制授業等により進んでいる。さらに、進路目標確立のための様々な取り組みが効果を上げている。しかし、生徒の進路志望の多様化に即して、その進路希望の実現のために今までの進路指導計画を見直し、さらに充実させる必要がある。またシラバスについては、教科指導に効果的に機能するための見直しが必要であり、さらに内容・配布方法等検討の余地がある。</td> <td>生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導について、その計画の立案と、具体的な実施方法の検討に早急に取り組む。 シラバス・授業アンケートについては、より効果のあるものを目指し、さらに検討を進める。また、生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、校内研修の充実を図るとともに授業研究、公開授業の機会を設定する。</td> </tr> </tbody> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	基礎・基本の確実な定着は習熟度別授業・少人数制授業等により進んでいる。さらに、進路目標確立のための様々な取り組みが効果を上げている。しかし、生徒の進路志望の多様化に即して、その進路希望の実現のために今までの進路指導計画を見直し、さらに充実させる必要がある。またシラバスについては、教科指導に効果的に機能するための見直しが必要であり、さらに内容・配布方法等検討の余地がある。	生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導について、その計画の立案と、具体的な実施方法の検討に早急に取り組む。 シラバス・授業アンケートについては、より効果のあるものを目指し、さらに検討を進める。また、生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、校内研修の充実を図るとともに授業研究、公開授業の機会を設定する。
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
基礎・基本の確実な定着は習熟度別授業・少人数制授業等により進んでいる。さらに、進路目標確立のための様々な取り組みが効果を上げている。しかし、生徒の進路志望の多様化に即して、その進路希望の実現のために今までの進路指導計画を見直し、さらに充実させる必要がある。またシラバスについては、教科指導に効果的に機能するための見直しが必要であり、さらに内容・配布方法等検討の余地がある。	生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導について、その計画の立案と、具体的な実施方法の検討に早急に取り組む。 シラバス・授業アンケートについては、より効果のあるものを目指し、さらに検討を進める。また、生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、校内研修の充実を図るとともに授業研究、公開授業の機会を設定する。				
(3) 基本的な生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自立心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に文化祭や修学旅行等の場面で自主的主体的な活動が行うことで成果を上げた。また生徒会執行部と生徒指導部が協力して行ったキャンペーン活動も一定の成果を上げ、多くの生徒が基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができた。</td> <td>基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。 生徒会活動・クラブ活動等の自主的な活動がますます充実したものになるように様々な取組を検討する。</td> </tr> </tbody> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自立心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に文化祭や修学旅行等の場面で自主的主体的な活動が行うことで成果を上げた。また生徒会執行部と生徒指導部が協力して行ったキャンペーン活動も一定の成果を上げ、多くの生徒が基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができた。	基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。 生徒会活動・クラブ活動等の自主的な活動がますます充実したものになるように様々な取組を検討する。
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自立心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に文化祭や修学旅行等の場面で自主的主体的な活動が行うことで成果を上げた。また生徒会執行部と生徒指導部が協力して行ったキャンペーン活動も一定の成果を上げ、多くの生徒が基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができた。	基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。 生徒会活動・クラブ活動等の自主的な活動がますます充実したものになるように様々な取組を検討する。				

【項目ごとの評価】

・「評価項目」の数字は、重点目標の項目番号。

領域	対象	評価項目	評価の観点	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策
教育活動	教育課程	(1) コース制の充実	コースの設定目標踏まえた上で、コースの内容・カリキュラムの研究・検討を行い、コース制の改善を図っているか。	コース制の改訂第1年目を経て、3学年の自由選択科目群の設置について科目の組み合わせを柔軟にしたが、一方で科目選択を安易に行う生徒に対する指導が必要である。	3年次自由選択科目群の再編成を検討し、より効果的な進路指導ができる教科の組み合わせに変更する。
			各コース履修者の70%が満足している（した）か。	・生徒のコース制アンケート結果によると、70%の満足度が得られていないことがうかがえる。原因の分析が必要である。 ・職員の自己満足に陥らないような検証が必要である。	アンケート結果の分析に基づき、ビジョン委員会とも連動しながら、教育課程委員会等での具体的な検討を進める。
	学習指導	(2) 学習目標の確立	授業担当者は、シラバスに基づき、生徒に学習目標・内容を公表・説明し理解させることで、生徒の学習意欲の喚起したか。	・教科によりシラバスの提示、説明の取り組み状況に差がある。 ・シラバスの生徒に対する説明が不十分な教科がある。	生徒に対する効果的な配布方法や自身の充実等の検討を進める。また、全教科での取組みをすすめる。
(2) 授業改善		授業担当者は、基礎・基本の定着に向けた授業改善のために、授業アンケートを実施したか。	・生徒の授業アンケートはシラバスとの連動でないもののほうが良いとの意見があり、運用方法について検討を進める必要がある。	・授業改善のための学習指導研修会等の実施をすすめる。 ・各教科共通のアンケート作成は難しいができるだけ形式の共通なものが必要である。	
	(2) 個に応じた指導	授業担当者は、生徒の要望等を把握し、補習授業及び個別指導の充実を図っているか。	学年により組織的な補習、個別指導、小論文指導が行われていない場合があるが、放課後等に徹底した個別指導を行った科目もある。成績不振の生徒に対しては、実態に即して手厚い補充や補習が行われている。	学校全体としての補習授業のあり方及び体制について、検討し、生徒の願いや希望に答えると同時に、基礎学力の向上に資する。	

教育活動		(2)	「総合的な学習の時間」の充実	生徒が主体的に取り組める学習目標・年間計画を作成し、指導体制を確立させているか。また、新たな視点を取り込む努力をしているか。	文化祭に向けた各学年の取組みは大きな成果をあげた。また、福祉体験学習も、1、3学年で同時に実施することにより、成果をあげることが出来た。	本年度の成果の上に、一層の指導の充実を進める。
	生活指導	(3)	基本的な生活習慣の確立	全職員が一致し、基本的な生活習慣の確立に向けた具体的な実践項目（身だしなみ・上下履き・ゴミ散らかし等への指導）を作成、実行しているか。	全職員の一一致した指導体制の確立が課題であるが、成果は着実に現われ、問題行動は減少している。生徒の生活態度も改善しているが、一部の授業における授業態度の改善にさらなる取組みが必要だ。	担任、学年会中心の一一致した指導体制を生活指導係がサポートする職員間の連携強化が必要である。また、改善した現状に甘んずることなく、生徒理解を深めていきたい。
				生徒相談体制の充実	生徒相談室係・スクールカウンセラー等と、職員間の連携を密にし、問題の解決に取り組んでいるか。	相談室としての機能を十分に果たしているという高い評価を得た。
	進路指導	(2)	進路目標の確立と自己実現	係と担任は、生徒一人一人の進路目標の早期確立に向けた具体的な指導をしているか。	進路指導の実態は「早期確立」とはかけ離れている。昨年からの課題である進路指導計画の見直しが必要である。	各学年の進路指導計画の充実が急務である。
					各教科担任は、高い目標を持った生徒の学習意欲に応える取組を行っているか。	進学希望者に対する指導の充実を図るとともに、進学希望者の進路に対する意識付けを早期に行うことが必要である。
クラブ	(3)	自主性を育てる指導	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。	生徒会係、クラブ顧問の尽力により充実した活動が展開された。また、部員数が少ない部でも日々努力する生徒の姿を全校で認め、育みたい。	生徒会活動に限定することなく、学級や学年行事を通じ、生徒の自主的な活動への意識を高める検討を進める。	
学校運営	組織運営	(1)	学校自己評価の実施	学校自己評価を実施し、教育活動の向上及び教育課程の改善を図っているか。	評価項目、評価の観点を評価しやすいものに替える必要が出てきている。	全職員が積極的に関わるような、学校評価システムの検討を早期に進める。
		(1)	情報集約	地域等への情報提供のための、諸活動の資料提供を積極的に行っているか。	資料収集が学年、係、クラブ顧問等で行われているが全体の集約が効率的に行われていない面がある。	創立100周年へ向けての情報・記録の集約を情報係、同窓会係等連携して取り組んでいきたい。
		(1)	情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をしているか。	Eメール通信・地域回覧板等の情報の公開やHPの充実等、教育活動の情報や資料の公開・提供は進んでいるが、更なる充実を図る。	様々な機会や手段を使っての情報公開は進んでいる。
	地域との連携	(1)	意見聴取と反映	地域の声を聴取し、教育活動に反映しているか。	学校評議員制度、教育懇談会等、地域の声を聴取する機会を持ってきている。しかし、その声をすぐに教育活動に生かす所までは至っていない。	貴重な提言や意見がいかにかに具体化されて実行されるかが最大の課題である。
		(1)	教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	アルプス太鼓やスイカの講師などで地域の協力を得ることができた。	同窓会、PTA役員はじめ身近な人々の協力を得、学年講演会、HR等での活用をすすめる。
	校内研修	(1)	授業・学習指導法の改善	研修会及び公開授業は、授業・学習指導法の改善を図るための研修となったか。	公開授業、研究授業の回数が増え、研修が盛んになってきている。また、授業公開が自己の授業実践の改善の励みとなっている。	研修計画を体系的に作成し、効果的かつ一部職員の負担にならないものにしていきたい。また、本年度並の公開授業、研究授業の計画は継続したい。
		(1)	生徒理解	生徒の希望や願い、夢を受け止め、対応できる生活指導・相談体制を確立するための研修となったか。	研修会に対する評価は概ね高いが、回数内容についてはさらに充実させるための検討が必要。	今年度の体制を維持しつつ、より効果的な研修会の実施の検討をする。
	施設設備	(1)	学習環境の整備	生徒が生き生きと活動できる学習環境を整備しているか。	清掃指導等は進んでいるが、施設面に対する課題は多い。予算的な問題が大きく対応できない課題も多い。	今年度の活動を継続発展させ、環境整備、美化への意識を高める取り組みをする。また、提言にもあった、花いっぱい運動などを実践できるように検討したい。